

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 23 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520814

研究課題名(和文) 戦国豊臣期西国の物流と地域社会

研究課題名(英文) The physical distribution and community of the 16th century western part of Japan

研究代表者

本多 博之 (Honda, Hiroyuki)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：30268669

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：荘園制市場構造が解体して幕藩制市場構造が成立する過程を探るため、東アジア経済の影響が比較的強い西国における戦国・豊臣期の物流の歴史的展開を、銀の国外流出や社会浸透と絡めて段階的かつ具体的に明らかにするもので、近年の考古学成果もふまえながら「モノ」の流れや、それを担う「人」(主に広域活動商人)の性格や経済活動を分析する一方、地形図や現地調査の実施によって戦国期の地域経済拠点(港湾・宿・市)の空間構成を復元し、その後の展開を追うことで近世城下町を中心とする物流の成立過程を考察した。16世紀の東アジアにおける銀の動向を背景とする戦国・豊臣期の政治経済の構造的変化について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：I analyzed for western part of Japan about the process in which medieval market structure collapses and modern market structure is materialized.

I clarified concretely the structural change of the politics and economics of Japan which makes a background silver circulation in East Asia in the 16th century by observing the flow of people or goods by being based also on an archaeological result in recent years.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：銀 幕藩制市場構造 戦国大名 豊臣政権 物流 流通経済 石見銀山 西国大名

1. 研究開始当初の背景

これまで私は、戦国・織豊期の貨幣流通の実態や、米の性格と機能、そしてそれに対する中央政権や大名権力など政治諸権力の政策的対応について、財政運営や権力編成の視点をふまえて明らかにし、その成果を『戦国織豊期の貨幣と石高制』(吉川弘文館、2006年)や「統一政権の誕生と貨幣(鈴木公雄編『貨幣の地域史』、岩波書店、2007年)等で発表してきた。それは、中近世移行期の社会経済の構造的変化の一端を解明したものであったが、その過程で当該期の西国の物流について明らかにする必要性を感じ始めた。

多くの研究成果がある中世の流通経済史研究だが、近年では、応仁の乱以降の市場構造について議論が活発化している。すなわち、守護在京制の形骸化等を背景に流通経済における京都の求心性の後退が指摘され、「首都京都の空洞化」と表現される一方、京都周辺の坂本・大津・山崎・淀・八幡・天王寺・兵庫・堺などの都市が経済的に発展し、それが都市群として首都経済圏を形成したと主張されている。その結果、首都経済圏内の拠点都市と各地の流通拠点(多くは港湾都市)がどのように遠隔地流通で結ばれていたのか、また地域の経済拠点間の流通、すなわち「必ずしも畿内に求心化しない流通」がどのように展開していたのか、という点が新たな課題となりつつある。

西国(西日本)は、基本的に東アジア経済の影響が強い地域であるが、対外的な影響を受けつつ、中央政権や地域権力が実施する諸政策のもと、「モノ」の流れや、それを担う「人」の動きの具体像を明らかにすることが重要である。

流通経済は本来、国郡などの行政的境界と関係なく、政治領域を越えて展開するものである。したがって、物流の担い手である商業勢力も、領主権力の支配領域や大名権力の領国を越えて活動する性格を持っており、政治諸権力が流通経済に積極的に関わるためには、交通の要衝をおさえ、これら広域活動商人をつかむことに努めた。この場合、彼ら商業勢力の特徴としては、身分的にも生業においても多様性や多面性を持つ存在であり、それはまさに兵商未分離の時代を体現する人々であり、これらの実態解明が求められる。

また、石見銀山の開発により、国際通貨である銀の流出と外国産品の国内流入が生じるが、石見銀山の技術伝播により生野銀山をはじめ国内各地の銀山で大量の銀が生産され、16世紀半ばになると国内でも通貨として流通し始める。度重なる戦争による兵糧需要の高まり、そして軍需物資の銀による調達を契機に、銀が社会に広く浸透することになるが、これを背景に物流がどのように展開したのか検討すべき課題である。すでに前掲書で石見銀山の産出銀が社会に浸透していく過程を示したが、16世紀後半の物流に与えた影響も、分析が必要と考えた。

2. 研究の目的

本研究は、荘園制市場構造が解体して幕藩制市場構造が成立する一過程を探るため、東アジア経済の影響が比較的強い西国における戦国・豊臣期の物流の歴史的展開を、銀の国外流出や社会浸透と絡めて段階的かつ具体的に明らかにするもので、貿易陶磁の出土など考古学成果もふまえながら「モノ」の流れや、それを担う「人」(主に広域活動商人)の性格や経済活動を分析する一方、地形図や現地調査によって戦国期の地域経済拠点(港湾・宿・市)の空間構成を復元し、その後の展開を追うことで近世城下町を中心とする物流の成立過程を考察する。

考察対象は戦国・豊臣期の西国(主に中国・四国地方)であり、応仁・文明の乱以降、豊臣政権末期までを三期に分けて物流の史的展開を段階的に明らかにする。まず、戦国期の物流そのものを構成する経済拠点と「モノ」の流れの実態について山陽地方西部を中心に分析する。その際、瀬戸内海沿岸や島嶼部の港湾の中世地形に加え、寺院や神社など宗教施設や領主居館などの空間構成を復元する一方、河川や陸路を注視しながら後背地も含めた経済圏のあり方を検討し、それが山陰側とどのような形で連結しているのか、陰陽交通の様相について考察する。次に、物流を支える「人」に焦点を当て、多様な身分や生業をもち、広域的に経済活動を行う戦国期の商業勢力(商人的領主、船持領主)のあり方と、豊臣政権における存在形態について比較検討し、初期豪商の成立状況を探る。その際、16世紀後半の物流の展開に大きな影響を与えた銀の社会浸透と、統一政権や諸大名のも

とで生じた銀の環流状況について具体化する。さらに、大坂・京都と各国の城下町との間に成立した「新たな求心的市場構造」を素材とし、中央政権主導の物流が登場する一方、近世城下町成立の傍らで消滅していく中世（港湾）都市の具体相について岡山・広島・三原・上関・富田・萩などを素材に明らかにする。

3. 研究の方法

基本的には、関係図書（専門学術書・自治体史・発掘調査報告書）や写真複製資料・地図（地形図・地籍図）を購入するとともに、関係論文について大学図書館を通じ複写請求して入手し、従来の研究成果を整理するとともに、関係史料を蓄積して分析を進める。

また、戦国期の地域経済拠点（港湾・宿・市）の空間構成（景観）を復元するため、自治体史や国土地理院の地形図をもとに周到的な事前準備をした上で現地調査を実施するほか、現地教育委員会の文化財担当者を訪ねて小字名や寺社・領主館など旧跡についての情報を入手する。

さらに、各種歴史資料保存機関に収蔵されている史料類を写真複製の形で購入・整備する。とりわけ、東京大学史料編纂所・内閣文庫・国立国会図書館には、原文書あるいは影写本・謄写本の形で関係史料が多数保存されているので、研究用資料として写真複製の方法で入手する。加えて、活字化されていない古文書・古記録類についても、写真撮影もしくは筆写するための出張調査をおこなう。なお、研究期間3年のうち最初の2年間を関係図書・写真複製資料の収集、残り1年間を主に現地調査と収集資料の分析に重点的に割り当てて研究を進める。

具体的な作業としては、まず「兵庫北関入船納帳」に登場する船籍地のうち、備讃瀬戸以西の港は畿内と遠隔地交易で結ばれる主要港湾なので、国土地理院発行の地形図と現地調査の実施によって中世の海岸線を推測し、景観復元に努める。次に、西国の中世遺跡のうち貿易陶磁器が比較的多く出土する15～16世紀の遺跡を抽出して地図に落とす作業を行い、搬入経路（海運・河川水運・陸運）について分析する。さらに、豊臣政権期の大坂や京都（伏見も含む）で実施された作事・普請に動員された西国大名の動向や材木・樽など

資材の輸送状況、大名領国内での資材調達・動員がわかる史料を収集する。

内容的には、物流を担った「人」やその経済活動に焦点を当て、多様な商人と生業としての多面性について分析するとともに、領国を越えて活動する商業勢力やその経済活動の実態について明らかにする。また、首都経済圏の歴史的展開を探るため、大坂本願寺のマチ構造や応仁の乱後の京都再生の過程を確認するとともに、豊臣政権期に登場した新たな求心的市場構造について理解するために、京・大坂における作事・普請の状況と、そのための資材搬入の状況について前年度収集した史料をもとに整理する。

さらに、豊臣政権期の中央と地方の関係を確認するために、京・大坂と各地の城下町との人的な結びつきや交流、「モノ」の流れ、中世経済拠点の消滅、そして藩域の成立によって新たに生まれた物流について分析を進める。

また、史料保存機関への探訪調査も継続して実施し、今後引き続き調査が可能な環境整備に努める。また、これら作業と並行して、解明した諸事実を中心に、学会発表や論文発表のほか、公開講座での講演等を通じて研究成果を広く社会に還元する。

4. 研究成果

史料収集のための出張調査は東京大学史料編纂所や山口県文書館、国立公文書館内閣文庫、宮内庁書陵部、そして広島県立歴史博物館等で実施し、原文書・影写本・謄写本・写真帳の閲覧のほか、マイクロリーダーによる影写本複写をおこなった。主なものに、宮内庁書陵部所蔵「毛利家古文書」（全2巻）や内閣文庫所蔵「尋憲記」（全12冊、紙背文書有り）、そして東京大学史料編纂所架蔵影写本「後藤文書」「妙心寺納下帳」がある。

また、周防上関や播磨室津など中世瀬戸内海における主要港津の空間構成（港湾の形状や集落・寺社の配置）や周辺の景観について再確認するため、現地調査を実施した。

具体的な作業としては、物流を支える「人」に焦点を当て、多様な身分や生業をもち、広域的に経済活動を行う戦国期の商業勢力（商人的領主、船持領主）のあり方と、豊臣政権における存在形態について比較検討し、初期豪商の成

立状況を探った。その際、16世紀後半の物流の展開に大きな影響を与えた銀の社会浸透と、統一政権や諸大名のもとで生じた銀の環流状況について具体的に明らかにした。また、大坂・京都と国内各地の城下町との間に成立した「新たな求心的流通構造」を素材とし、中央政権主導の物流が登場する一方、近世城下町成立の傍らで消滅する中世（港湾）都市の具体相について検討し、その成果の一端を「中近世移行期西国の物流」や「西国の流通経済」「戦国豊臣期の瀬戸内海水運と政治権力」と題する論文（雑誌・図書）にまとめて発表した。

そして、戦国期の物流そのものを構成する経済拠点と「モノ」の流れの実態について山陰地方を対象に分析し、その成果を島根県立古代出雲歴史博物館で報告、講演したほか、十五・十六世紀の山陰地域における流通経済と貿易状況の史的展開について、東アジアの視点で整理し、中世から近世への社会的変容を「十五・十六世紀山陰地域における流通経済と貿易」と題する論文にまとめて発表した。なお、戦国・豊臣期の政治・経済の構造的展開を東アジアの視点で論じる成果については、2011年10月にシンポジウムで報告し、それを「戦国豊臣期の政治経済構造と東アジア」と題する論文にまとめて発表した。

さらに、上洛前の貨幣状況をふまえた上で、織田信長の貨幣をはじめとする諸政策と石高制の成立背景を考察した成果について学会報告するとともに「織田信長政権期京都の貨幣流通」と題する論文にまとめて発表した。

加えて、首都市場圏の歴史的展開を探るため、応仁の乱後の京都再生の過程と豊臣政権期に登場した「新たな求心的流通構造」について分析し、京・大坂における作事・普請の状況と、そのための資材搬入の状況について明らかにするとともに、中世紀行文の分析による流通・交通の実態解明を進めた。

そのほか、毛利氏領国を対象に、貨幣流通の実態と大名の領国支配、流通・交通や商業都市（山口・防府・赤間関・長府など）で分析を行った成果を『山口県史 通史編 中世』において執筆した。

そして現在、研究期間全体の成果をふまえ、東アジアにおける銀の動向を背景とする戦国・

豊臣期の政治経済の構造的変化について一書にまとめることとし、26年度中の刊行に向けて作業を進めている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6 件)

1. 本多博之，十五・十六世紀山陰地域における流通経済と貿易，島根県古代文化センター研究論集，11巻，査読無，2013，pp55-69
2. 本多博之，中世瀬戸内の流通と交通 高崎・忠海・竹原を中心に，地域アカデミー2012 公開講座報告書，10号，査読無，2013，pp39-48
3. 本多博之，戦国豊臣期の政治経済構造と東アジア，史学研究，277，査読有，2012，pp1-27
4. 本多博之，備後北部の戦国時代史，地域アカデミー2011 公開講座報告書，9号，査読無，2012，pp5-28
5. 本多博之，織田政権期京都の貨幣流通 石高制と基準銭「びた」の成立，広島大学大学院文学研究科論集，72号，査読無，2012，pp1-20
6. 本多博之，中近世移行期西国の物流，日本史研究，585，査読有，2011，pp83-112

〔学会発表〕(計 2 件)

1. 本多博之，信長が見た戦国京都の貨幣事情，平安京・京都研究集会 第22回信長と京都(招待講演)，2011年7月31日，機関紙会館(京都市)
2. 本多博之，戦国豊臣期の政治経済構造と東アジア，広島史学研究会大会シンポジウム，2011年10月29日，広島大学

〔図書〕(計 4 件)

1. 本多博之・鈴木康之，広島県立歴史博物館，備後渡辺氏に関する基礎研究，2013，42
2. 本多博之，山口県，山口県史 通史編 中世，2012，1000(635-661)
3. 本多博之，高志書院，橋本久和監修 日本中世土器研究会編集『考古学と室町・戦国期の流通』，2011，330(162-186)
4. 本多博之，清文堂出版株式会社，川岡勉・古賀信幸編『日本中世の西国社会2 西国における生産と流通』，2011，348(85-113)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

本多 博之 (HONDA HIROYUKI)

広島大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30268669